

## 1. 学校研究全体計画

### (1) 本校の研究主題および副題について

# 「自分の考えを持ち、ともに学び合う子の育成」

～物語を味わいながら、言葉の力を積み上げる国語科の授業作り～

#### ① 研究主題設定の理由

変化の激しいこれからの社会を生きる子どもたちは、学校で学んだことを基盤に、社会に出ても学び続けていく必要がある。だからこそ、基礎的な学びと出会う小学校期には、一人ひとりの子どもが学ぶことの意義や学び方を理解し、学ぶ楽しさに触れ、主体的に学び続ける姿勢を身に付けていく事が特に重要であると考えます。

本校は、昨年度から国語科の研究に取り組んでいる。昨年度は、主題を「子どもが主体的に学ぶ授業づくり」副題を「子どもが学びの積み上げを自覚する国語科の授業作り」として、単元で何を学ぶかを明確化し、子どもがつけたい力をつけ学びを自覚するための単元構成を工夫することを重点として、研究実践を行った。

単元で子ども達につけたい力を「国語のアイテム」という形で明確にしたことで、子ども達とゴールの姿を共有することができ、見通しを持ちながら毎時間の学習課題に取り組むことができた。また、単元構成を、①これまでの学び（国語のアイテム）を確認する時間の確保、②学んだことを生かし試すための言語活動、③単元の学びを自覚するための振り返りの3つを意識して組むことで、子どもがつけたい力をつけ、学びを自覚することができた。

しかしながら、研究を行っていく中で、児童が新しく獲得した「国語のアイテム」を使う必然性のある言語活動を仕組むことや、「国語のアイテム」を使いたくなるような単元構成および課題の設定の難しさが明らかになった。そこで、今年度は、児童にとって取り組む必然性があり、かつやってみたいと思えるような言語活動を選定すること、また、児童がつけたい力を獲得できたと自覚できるような単元構成、および主体的な学びを引き出す課題の設定について、研究していきたいと考えた。これらの研究を進めていく中で、物語のもつ面白さや不思議さを味わいながら、言葉の力を積み上げる国語科の授業作りを目指していく。

#### ② 研究仮説

授業をつくる上で教材研究は必要不可欠である。しかし、現場では若い教員が増え、教材研究をどのようにすればよいか分からないという人もいるのが現状である。そこで、若手はベテランから教材研究の仕方を学び、ベテランは若手から新しいアイデアをもらい、若手とベテランが知恵を出し合いながら、深い教材研究に取り組んでいきたい。そうすることで、子どもたちがつけたい力をつけられるような国語科の授業づくりにつなげていきたい。

また、子ども達とともに学び合うためには、まず、自分なりの考えや思いをもつことが前提になる。その思いや考えを友達と交流することで、新しい見方を得たり、深まったりすると考える。つまり、全員が課題に対して考えをもってこそ、学び合いが始まるのである。全員に考えを持たせるために、これまでの国語科の授業で獲得してきた「国語のアイテム」を使い、物語のだいたいを捉えさせたり、読むためのキーワードとなる言葉に着目させたりする必要がある。そこで、単元の初めには、前学年や前単元で獲得した「国語のアイテム」を確認する時間を確保する。その際に、「新しく獲得するアイテムが何か」「本単元では何を学ぶか」「どんな力をつけるのか」を明らかにすることで、つけたい力を明確化し、教師と児童の目指すゴールの姿をそろえる。また、児童が自らやってみたいと思えるような、魅力的かつ、つけたい力がつくような言語活動を選定することで、児童の主体的な学びにつなげたい。単元の終わりには、子どもの振り返りやアンケート等を分析することで、子どもが学びを自覚しているのかを見取り、改善を繰り返しながら実践を進めてきたいと考える。

さらに、授業づくりに併せて、人間関係づくりや学習規律の徹底、基礎基本の定着など学びの土台となる力を醸成していく。授業づくりと学びの土台作りの2つを両輪として、さらに子どもたちの主体性を高めるような授業を目指していきたい。

## 教育目標

自ら学び、心豊かでたくましい、未来を切り拓く月津っ子の育成

### 【めざす児童の姿】

笑顔あふれる月津っ子

- ・自ら考え、表現する子
- ・思いやりのある子
- ・たくましく、粘り強い子

## 研究主題

### 自分の考えをもち、ともに学び合う子の育成

～物語を味わいながら、言葉の力を積み上げる国語科の授業作り～

物語を味わいながら、言葉の力を積み上げる  
国語科の授業づくり

- ①子どもが各学年の国語科の物語教材において言葉の力をつけるための教材研究
- ②子どもがつけたい力をつけるための単元構成（重点）

### 学びの土台づくり

- ・聴く力の醸成
- ・個別最適な学び・協働的な学びのためのICTの効果的な活用
- ・学習規律の徹底
- ・確かな学力（基礎・基本の定着）

検証

- ・単元末の授業のふりかえり「この単元で何を学んだか」
- ・授業交流
- ・アンケート
- ・ミニ部会